

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 2604 学校名 大垣商業高等学校（定時制）

社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の多様性を尊重し、生徒の学びを保障する定時制商業高校として 一人一人の能力や特性に応じたきめ細かな教育活動を通して 確かな学力とビジネスマナーを身に付け、自他を尊重し、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す学校			
学校教育目標 (教育方針)	(1) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心と健やかな身体の育成 (2) 地域・家庭・学校の連携協力による明るく、活力ある地域社会人の育成			
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活を送るうえで必要な基礎的な学力を身に付け、社会の一員として主体的に行動できる生徒 自分の言動が人にどのような影響を与えるかを考え、固定概念にとらわれず柔軟な発想をもって人と接することができる生徒 地元を愛し、地域の一員として働くことができる生徒 		
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力を向上させる普通教科と、専門的な学力をつける専門教科（商業）をバランスよく配置したカリキュラムの編成と「わかる授業」の実践 少人数授業などにより、生徒の実態に合わせて学び直しを取り入れながら、基礎・基本の定着を図る学習活動の実施 全職員で全校生徒を見守り、授業だけでなく、学校行事や部活動などすべての教育活動を通して、協力・協調できる人間性の育成 		
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学校生活に意欲をもち、日々の学習や行事などに取り組むことができる生徒 「働きながら学ぶ」ことに自覚と誇りをもつ等、自己実現の意欲があり将来の目標に向かって努力できる生徒 他人に対する思いやりの気持ちをもち相手の立場を理解して物事を考え行動できる生徒 		
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着が不十分であったり、他人から認められた経験が少なかったりすることにより、自信がもてず、自己肯定感が低い生徒がいる。 社会とのつながりが希薄であった生徒が多く、望ましい職業観やコミュニケーション能力が育っていない。 			
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標		
	学習指導	生徒の実態に即してわかる授業を実践することにより、基礎学力の定着や向上に努め、生徒自らが主体的に学ぶ姿勢を育成する。		
	生徒指導	生徒一人一人が自分らしく生きられるよう、個々の生徒の特性を理解し、マナーやモラルを含めた社会性を育成する。		
	進路指導	働きながら学ぶことを支援するとともに、望ましい勤労観や職業観を育成し、将来において自己実現を目指す支援、指導を行う。		
	保健管理	食育指導を含めた心身ともに健全な身体づくりと、危機管理及び安全意識の向上を図る。		

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
学習指導	①学び直しによる基礎学力の定着と向上	施策 II-8	成績不振者の減少 検定試験合格者の増加 I C T 機器の利用頻度 授業評価の向上	①成績不振者は減少した。	B	○学び直しを適宜取り入れ、わかる授業と個別支援を行うことで、前向きに取り組ませることができた。	B
	②個々の生徒に対応したきめ細かな指導	施策 IV-23		②検定合格者数は増加した。		○生徒のニーズを的確に把握し、個に応じた指導を継続することで、意欲的に学習に取り組ませることができた。	
	③I C T 機器を活用した魅力的な授業の実践	施策 II-9		③教科により利用頻度は異なるが、調べ学習等で利用する姿が見られた。		●効果的な活用に向けて、教員間で情報共有を行いながら、生徒の利用方法を検討することが課題である。	
	④教員の指導力向上を図る研修の実施	施策 IV-26		④授業アンケートの結果は概ね良好であった。		●授業の満足度は高いものの、主体的な学びの定着には課題が残るため、さらなる支援に向けて指導力向上に努める。	
生徒指導	①担任及び担当者による教育相談活動の充実	施策 I-3	長期欠席者の減少 就労者数の増加 問題行動等の減少 生徒会活動の充実	①長期欠席、欠席累積数とともに激減した。	A	○生徒の居場所づくりと安心感を与える働きかけができた。	B
	②様々な人との関わりによる社会性の育成	施策 I-1		②昨年度と同程度の就労者数であった。		○アルバイトなどで様々な人との関りを推奨する。	
	③人権教育の推進と保護者との連携強化	施策 I-2		③問題行動発生件数が0件。		○自分と仲間を認め合う雰囲気を醸成することができた。	
	④部活動・学校行事など特別活動の充実	施策 I-5		④充実した活動内容であった。		○部活動の積極的な参加、活動の充実を年間を通して実践できた。	
進路指導	①キャリアパスポートを活用した進路意識の高揚	施策 II-13	進路先の早期決定 第1志望への進路決定 三者懇談の充実 学校評価の結果	①早期決定者の割合は昨年と同程度であった。	B	●キャリアに関する見通しを持てるような活動を行う。	B
	②多様な生徒へのきめ細かな就職・進学支援	施策 IV-22		②個々の生徒の希望に合わせ、臨機応変に支援を実施した。		●面談等により、個々の希望をより詳細に把握する。	
	③進路相談の工夫と地域・家庭との連携・協働	施策 I-7		③家庭とよく話し合い、外部機関と連携した支援を行った。		○複数機関と密接に連携した支援を実施することができた。	
	④進路に関する情報提供の充実	施策 IV-23		④生徒・保護者による学校評価の結果は、高評価を維持している。		○配付物や掲示により情報提供を充実させることができた。	
保健管理	①心身ともに健康な生徒の育成	施策 III-17	治療勧告者の受診率向上 学校評価アンケート結果 給食の喫食者数増加 感染者数の減少	①昨年度と比較して受診率が若干向上した。	B	○受診勧告書を配布する際に、養護教諭から個別指導をした。未受診の生徒には懇談時に勧告書を配布し、保護者にも伝えることで、更なる受診率向上に繋げたい。	B
	②安心・安全な学校生活の確保	施策 III-19		②すべての項目で良好な結果が得られた。		●保護者の評価は生徒より低い項目が多かった。保護者の理解をさらに深めるため、学校からの情報発信を積極的に行う。	
	③食育指導の充実と自己の健康管理	施策 III-17		③喫食率は、70~80%で安定していた。		●週末やテスト期間の喫食率が低下するため、声かけを積極的に行うとともに、食堂の栄養に関する情報提供を充実させる。	
	④感染対策の継続・徹底	施策 III-18		④昨年度と比較して感染者数は微増だった。		○校内外の感染状況を適切に把握し、生徒や職員に啓発するとともに校内の環境衛生を整えたことで、校内での感染拡大を防ぐことができた。	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月27日

(学習指導) 個々の理解度に応じたきめ細やかな指導を継続し、基礎学力の定着と検定試験合格率の向上を図る。ICT機器を授業に効果的に取り入れ、生徒の主体的な学びを促進することで、学習意欲と自立的な学習態度の育成に努める。

(生徒指導) 基本的生活習慣の確立、モラル教育、マナー教育、交通安全教育については継続して指導・支援するとともに、他人を思いやる気持ちや相手の立場に立って物事をとらえる見方・考え方を育成し、社会の一員として人とのつながりを大切にする指導・支援も継続する。

(進路指導) 個々の希望に沿ったきめ細かい支援・指導を実施するとともに、進路を通じて自己実現ができるよう、自らのキャリアを設計できるような機会を提供していく。

(保健管理) 安心・安全な学校生活の確保に向けて、安全教育の充実を図り、講話などを通じて意識を高める。併せて、日常的な健康管理・安全管理に努める。また、基本的生活習慣の定着を目指し、保健指導を充実させる。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月27日

日頃の個に応じた、きめ細やかな指導が功を奏し、欠席数の減少や成績不振者の減少につながったと言える。また、授業の工夫により普段の授業において生徒たちが真面目に取り組んでいることも窺える。

生徒指導事案が皆無だったことは、多様な生徒がいる中、全ての先生方が絶えずアンテナを高くし、様々なトラブルを早期に察知して対応していることの表れであり、加えて平時から他を思いやる雰囲気を醸成できている証左だと言える。部活動への参加率も上昇し、多くの生徒が良好な人間関係を築きながら、より意欲的に学校生活を送っていることが分かる。

今年度の地道な工夫や努力がきっと次年度の更なる発展につながるものと期待する。